

編集後記

本号は膵・胆管造影法の特集号である。御存知のように本法は最近数年間のトピックニュースの1つであり、本邦で次々に出された成果は世界の消化器内視鏡学会を湧かせたと形容できることがらである。

本号は御覧のようにこの成果をあげた方々が百花繚爛とその名前をつらねておられ、誠に壮観といえる内容である。心ゆくまで熟読玩味していただきたい。

本号はこのように、貴重な文献として長く歴史に残ることであろう。そして、この次の時期は、本法が大幅に簡略化されて広く実施され、そして膵・胆・肝の早期診断がまさに広く可能になる時であろう。この道は、尚きわめてきびしいといわざるを得ないが、その時の1日も早く来ることを願ってやまない。

本号は論文が多く、そのため症例も1例（女子医大の悪性貧血と早期胃癌合併の珍しい1例）となり、座談会も省略された。然し、論文の内容の豊富さ優秀さは、これを十分補って余りあるものと考えられる。

「胃と腸」を運営する早期胃癌研究会も食道は勿論、小腸大腸の症例も今後採用していこうという企画が、先般の同会の新年会で村上教授より発表された。名実共に胃と腸の内容になるわけで、喜ばしいことである。この意味での今後の発展を祈ってあとがきとする。

<崎田 隆夫>

<編集> 早期胃癌研究会